

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

タイトル 地域農産物ブランド「あんぼ柿」の産地復活に向けた取組み

J A 名 旧 J A 伊達みらい（現 J A ふくしま未来）（福島県）

1 動機 （経緯）	旧 J A 伊達みらい管内地域発祥のあんぼ柿は、原発事故の影響により平成 23 年度から 2 年間にわたり、全面的な生産自粛を余儀なくされていました。 平成 25 年度から加工再開モデル地区を設定し、対象地区を順次拡大しながら生産量の回復に取り組んでいますが、本格的な生産再開に向けて、総合的な対策が必要となっています。
2 概要	当 J A は国・県との連携を強化し、安全な原料柿の確保、農業生産工程管理（GAP）、全出荷品の放射能検査体制構築に取り組んでいます。 平成 25 年度からは、J A 独自に農家の営農再開に必要な資機材等の費用助成を実施しながら生産者の意欲向上を図るとともに、あんぼ柿加工選別包装施設を新設して生産者の作業負担軽減および品質の向上、6 次化商品開発によるブランド回復等の取組みを開始しています。 なお、農林中央金庫福島支店は、農家が負担する基肥の費用、あんぼ柿ブランド回復に必要な費用（HACCP 認証取得費用、原料柿専門運搬容器型製作費用等）に対し助成を予定しています。
3 成果 （効果）	平成 27 年度からは、あんぼ柿加工再開モデル地区が管内全域に拡大され、原料柿生産者も営農を再開することができました。 平成 27 年度までに営農再開した農家は 1,505 名となり、出荷量については 614 トンと震災前の 5 割程度の水準まで回復しています。
4 今後の予定 （課題）	今後も国・県との連携を強化しながら、生産者の営農および生産現場における支援を継続するとともに、安心・安全対策には細心の注意を払い、消費者に対しても的確な情報提供を行っていくことにより、地域農産物ブランド「あんぼ柿」の復活に取り組む予定です。



あんぼ柿加工選別包装施設



あんぼ柿